

科目名	第二言語習得論特殊研究	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>第二言語習得は、日本語教育をはじめとする外国語教育に関わる研究者や教員にとって非常に重要な分野であり、本講義では第二言語習得に関する理論を基本から最新の理論まで広く学び、さらに、自分の分野に理論を応用できる能力を養うことを目的とする。</p> <p>倫理的に課題を達成する能力、言語教育における問題点の把握と解決策を提案する能力、論理的に考察する能力、問題を解決する能力、新しい課題に挑戦する力、自己分析能力の向上を目指す。</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリック：A1-4, A-2:4, A-3:4, A-4:4, A-5:4, A-8:4】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 第二言語習得に関する理論を理解し、研究に応用できる能力を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第二言語習得の基本的理論と最新の理論を説明できる。(知識・解釈)</li> <li>先行研究を参考に、文法項目の導入順序と習得順序の違いを記述できる。(知識・問題解決)</li> <li>第二言語習得の理論を自分の研究に応用できる。(知識・問題解決)</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る</li> <li>インターネット等で自律的に関連文献を検索し、レポートを完成させる。</li> </ul> <p>【学修方略 (LS)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材と関連文献を熟読する。(自習)</li> <li>課題に関し、小規模調査を実施する。(自主研究)</li> <li>レポートを執筆する。(レポート作成)</li> <li>他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。(ディベート)</li> <li>他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。(ディベート)</li> </ul> <p>【学修時間】</p> <p>各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材と関連文献の学修：20 時間</li> <li>事例の分析とレポート執筆：15 時間</li> <li>レポート遂行と最終稿の完成 (教員の添削指導, ピア・レスポンスを含む)：10 時間</li> </ul>		
スケジュール	<p>&lt;前期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 締切：6月末 (初稿) (最終稿提出期限：前期締切日)</li> <li>レポート課題2 締切：8月末 (初稿) (最終稿提出期限：前期締切日)</li> </ul> <p>&lt;後期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題1 締切：11月15日 (初稿) (最終稿提出期限：後期締切日)</li> <li>レポート課題2 締切：12月末 (初稿) (最終稿提出期限：後期締切日)</li> </ul>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	形式 (構成、引用の仕方、適切な表現)、内容 (論旨の明快さ、独創性、課題把握の適切性)
	観察記録	20 %	レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師によるフィードバックをもとにレポートを完成させることが求められる。</li> <li>無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。</li> </ul>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 大関浩美 教材名： 『日本語を教えるための第二言語習得論入門』（くろしお出版，2010） ISBN： 978-4-87424-480-7 1,800 円+税
	本書は、日本語教育に関する事例を多く取り上げながら、第二言語習得の理論を非常にわかりやすく解説したものである。また、過去の研究例も多く紹介されており、日本語教育を教えるために必要な理論、習得に影響を及ぼす要因などを理解するのに適している。
参考図書	小柳かおる『日本語教師のための新しい言語習得概論』（スリーエーネットワーク，2004） ISBN： 978-4-88319-326-4 1,600 円+税
履修上のポイント	基本教材 1 は第二言語習得論の入門書であるが、第二言語習得の理論は、日本語教育の研究や実践に非常に重要であるため、十分に理解すること。さらに、習得に関する論文を読み、日本語教育における習得研究の概要を理解してほしい。
レポート課題 1	基本教材 1 の第 4 章から第 7 章を読んで、初級日本語の教科書で取り上げられている 1 つあるいは複数の文法項目について、本書に書かれている習得理論の観点から分析する。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 分析する観点を明示すること。なお、専門が日本語教育でない場合は、他の言語の教科書でも構わない。
レポート課題 2	習得に関する論文を 2～4 本読み、本書の内容を踏まえて分析し、自分の意見を述べる。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 分析する観点を明示すること。展望論文やメタ分析の論文は対象外とする。なお、専門が日本語教育でない場合は、他の言語の教科書でも構わない。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 小柳かおる・峯布由紀 教材名： 『認知的アプローチから見た第二言語習得』（くろしお出版，2016） ISBN： 978-4-87424-683-2 3,700 円+税
	認知的アプローチから第二言語習得理論を扱ったもので、後半は教室習得研究に焦点をあてている。英語教育のほか、国内外における日本語教育に関する研究例が紹介されており、該当分野の最新の動向を知ることができる。
参考図書	南不二男『現代日本語文法の輪郭』（大修館書店，1993） ISBN： 978-4469220926 2,000 円+税
履修上のポイント	第二言語習得研究、特に教室習得に関する研究は、国外において英語で発表されたものが多いが、本書にはこれらの研究が多く紹介されており、貴重な情報を得ることができる。関心のある文献を入手し、読んでほしい。処理可能性理論を用いた日本語文法の発達段階を理解するためには、参考図書の『現代日本語文法の輪郭』が参考になる。
レポート課題 1	基本教材 2 の第 1 章から第 3 章を読み、日本語の発達段階について具体例をあげて検討した上で、自身の考え、該当分野の展望を述べる。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 専門が日本語教育でない場合は、他の言語を扱っても構わない。
レポート課題 2	基本教材 2 の内容を参考に、習得に関する実験計画を立てる。具体的な対象、取り上げる項目、期間、方法、検証方法、予測される結果を論じる。（3,000 字～4,000 字） <b>留意点：</b> 取り上げる項目について、なぜ対象とするのかその理由も述べる。なお、専門が日本語教育でない場合は、他の言語を扱っても構わない。